

歴女がゆく

私が出逢ったディープな中世



中世の山城

烏帽子形城跡

国指定史跡となっている烏帽子形城跡は、かつて室町時代後期から秀吉の時代まで使われた山城でした。

土塁と横堀

土塁とは敵の侵入を防ぐため盛土により築かれた堤防のような防御壁です

Deep!

頂上からの眺望

ココが中世!

烏帽子形八幡神社本殿は室町時代後期の文明12年(1480年)に石川八郎左衛門尉により建てられました。江戸時代初期、甲斐庄氏が社殿を修理しています。

城跡ふもとの烏帽子形公園遊具が一新。思わず童心にかえりました!

曲輪(復元された礎石建物跡)

堀切

喜多町に位置する烏帽子形城跡は、岩湧山系からのびる丘陵の先端にあります。麓には高野街道が通り、交通の要衝でした。

城といえば、平地に築かれ天守閣をもつ建物を想像されがちですが、中世の城は自然の山を利用した「山城」が主流で戦闘時に使われました。烏帽子形城跡は、戦国時代の横堀や土塁などの山城遺構が良好な状態で残されており、平成24年に国指定史跡となりました。

本城は、室町時代に河内を治めた畠山氏の城として登場します。畠山氏が後継者争いで分裂すると、本城も合戦の舞台となります。その後、三好氏や織田氏・豊臣氏により支配され、秀吉の紀州攻めの際に改修されたと考えられています。今も残る横堀などの遺構は、秀吉の改修時のものとされています。城跡は麓の烏帽子形八幡神社の鎮守の森の一部や公園になっています。

中世トリビア⑧ほかにもあった山城

本市域には烏帽子形城以外にも山城が築されました。城跡と考えられる石仏城や旗蔵城が知られます。また天野山金剛寺の近くにあった仁王山城は、中世の史料にも何度か登場しています。



▲史跡烏帽子形城跡のイメージキャラクター

今回の歴女 山本さん

自然の中に残る土塁や横堀が圧巻でした。山頂からは、手前に河内長野、奥にはあべのハルカスまで望むことができました。私のお気に入りのスポットになりました。よく遊びに来た子どもたちのころとは違った新たな楽しみ方を発見できました。

